

先日、私たち曹洞宗において、「正見（しょうけん）^{ただ}正しく見る」正しい知恵をもって生活しましょう・・・という発信をいたしました。その理由は、福島第一原子力発電所の震災による事故によりその地域の人々への風評被害が拡大しているからです。福島県から避難した子供たちへのいじめや差別などさまざまな被害も報道されています。

お釈迦さまの教えの基礎となる大切なものの一つに、八つの正しい道の教え、「八正道」^{はつしょうどう}があります。この八つとは、正見（しょうけん）・正思惟（しょうしゆい）・正語（しょうご）・正業（しょうごう）・正命（しょうみょう）・正精進（しょうじゆん）・正念（しょうねん）・正定（しょうじょう）です。この八つのうちの最初の教えが「正見（しょうけん）」であり、正見とは、正しい観察のことです。

「正しい」という言葉は、人によって捉え方^{とら}が異なります。自分にとって正しいことでも他人にとってそれが正しいとは限りません。自分勝手な心でものごとに対応すると間違った受け止め方をすることになり、正しくありのままに理解することは難しいかもしれません。

では、仏教にとって「正しい」とは何でしょうか。

お釈迦さまは、偏^{かたよ}らないこと、つまり「中道」^{ちゆうどう}だと説かれています。

例えば、ここにヴァイオリンやギターのような弦楽器^{げんがつき}があるとします。良い音を出すには、絃^{げん}を強く張りすぎても出ず、また緩くても良い音色^{ねいろ}は出ません。つりあい^{ねいろ}がとれ、ちょうど良く張ってこそ良い音色が出るのです。

私たちが、苦に^{おちい}陥^{おぼ}らず楽に溺れずに、つりあいのとれた生活を歩んで行く道が「中道」^{ちゆうどう}であり、この「中道」に至る方法が、「八正道」^{はつしょうどう}なのです。その最初の言葉である「正見」は、苦^くが起きる原因やその苦がどうしたら無くなるかを正しく知ることを意味しています。

みなさんは、今ここに「正見」^{しょうけん}という教えに出会いました。これは、仏教信者としての考え方や行動の基本となるものです。